

地方自治ここにあり 首長インタビュー

「稲むらの火」を引き継ぎ、防災対策と「楽しく誇りの持てるまちづくり」

広川町 榎原 淳 奈 町長



榎原広川町長

昭和の南海地震から79年。「稲むらの火」に由来した世界津波の日が制定されて10年。今回の「首長インタビュー」は広川町の榎原淳奈町長です。昨年11月、前西岡町長の逝去で行われた町長選挙で初当選されました。聞き手は地元の山下理事と大前です。

大前：町議会議員としても長く務められ、広川町に精通されている町長ですが、大事にされていることは。

町長：やっぱり、一番大事にしているのは、町民のご意見です。議員の時からも、本当に身近な困りごとを聞いてきました。その延長線上に町長はいると思っています。町民の方は、「こんなことをやってほしい」と言ってくるので、それをいち早く課長らと協議して返事をして、出来ることは早急に進めるようにしています。

山下：町民として、ありがたいのですが、全て要望どおり

にならないのでは。

町長：議員の時、町長に話をするときは、整理して話を持っていきました。住民の皆さんもそうだと思うのです。自分の思いの丈を述べていると思います。それをきっちり受け止めるのは、我々の仕事だと思っています。

大前：町長になられて、現場の実際はどうですか。

町長：やはり執行権があるので、責任がむちゃくちゃ重たいです。課長さん方と相談しながら、間違いない選択をしながらやっています。でも、それだけなら自分の意思もなくなるので、やりたいことは執行部とも詰めて、徐々にですが、やっていこうとしています。

稲むらの火の思いを引き継ぐ防災対策

令和の広村堤防ともいえる鎮守の森は、今年の3月に90数メートルを整備しました。西岡前町長が企画をして、私

が事業をさせていただきました。これを守って未来の子どもたちに残していく、広村堤防あつての広川町だと思っています。濱口梧陵さんの功績は非常にありがたくて、これを守っていきいたいと考えています。

大前：広川町は濱口梧陵さんの意志を引き継いで、津波防災対策に注力しています。地域防災計画を見ても力が入っていると思いましたし、避難施設の「まもるくん」や、廣八幡宮の避難所とかを整備されてきたと思うのですが。

町長：それが、絵に描いた餅にならないように、計画はきっちり書いていますが、実践できないという意味がないので、そこをしっかりとやっていこうと思っています。

この間のカムチャツカの地震は、こちらは揺れてないから余裕があつて、昼間で職員もいたもので、きちんと持ち場へ行つて、陸開門を閉めるとかも、そつなく出来たのですが、それが大きな地震が来た時に、休日や夜中でも出来るのかどうか。

大前：職員は、担当の陸開門があつて閉めないといけないという話を聞いたのですが、町長：近所の職員が持ち場と

いうのがあるので、その方たちが埋め立ての陸開門を閉めるという事から津波対策は始まるのです。3、4人ぐらいが担当していると思うのですが、全員が被災してしまつたら、閉めに行く術がなくなりますので、そこらへんは対応を検討しなければと考えています。

山下：江上川河口の天皇水門はどうなっているのでしょうか。

町長：天皇の方は遠隔で閉まります。役場に操作施設があるので、現在機械の更新をしており、大津波警報を受信したら自動で閉鎖する予定です。ただ、感恩碑前の防波堤の陸開門は、道路を遮断して閉めるので、車などの安全確認が必要なのです。

広川町は、広村から始まつて、800年ぐらい歴史があるのです。昭和21年の南海地震が来るまでの663年間の間に8回津波が来ています。それを単純に割つたら、84年に1回来ていまして、昭和21年からもう79年経っているのです。

山下：いつ来てもおかしくないといいことですね。

町長：それを皆さんに、自分の命は自分で守ってほしいと。なおかつ避難できた方は、被



鎮守の森のプロジェクトの「令和の大堤防」

災害を助けに行つてほしいと、自分の命が最優先なので、危険でない対応をしてほしいとは思っているのですが、それを私はいろんな会合のたびに言っているのです。チーム広川で1人の犠牲者も出さずに、この災害を乗り越えられたらというふうには思っているところなのです。

ハード面では、県が湯浅広湾の一字堤防の補強工事を行っています。消波ブロック、通称テトラポッドを、唐尾漁港で作っていただいています。現状なら、津波時に倒される

のじゃないかということ、その足元へテトラポッドを設置する予定になっています。山下：一字堤防は台風で動いたと聞いたことがあります。町長：また、避難施設が12あるのですが、避難所にトランシーバーを置いて、携帯電話が通じなくなっても、いち早く我々と連絡できるように、町の幹部が6人持つようにしよう思っています。使えなければ意味がないので、避難訓練時に説明をしつかりするつもりです。

あとは、トイレカーを1台購入する予定にしています。これも1000万円ぐらいするのですが、身体の不自由な方、障害を持っている方に対してのトイレカーと思つていまして、他の健常者の方には簡易トイレのラップポンというのがある、普通に便座に座って、袋になって用を足したら、圧着して処理する。また、プライバシーを守るためのパーテーションや段ボールベッドも購入を予定しています。避難施設で少しでも快適に過ごせるようにと考えています。

カムチャツカ地震の時に、知的障害者の方の親御さんから、避難所で見知らぬ方と一

緒にいと、パニックを起こして、居づらくなったので、障がい者の方が避難できる場所が欲しいのですと要望があつて、それも今、検討中です。この時は、警報中でも、浸水域にある自宅へ帰ったということがあつて、大きな津波が来ていたら、その方らの命がどうなっていたのかかわからないので、そこらへんも安心して避難できるような対応をしなければと思っています。

9月に、広川町でドローンを使って農業経営をしている合同会社寺田と災害時にドローンで撮影してもらう協定を締結しました。その辺も上手に活用できたらと思っています。

大前：先ほどお聞きした鎮守の森はどのようなものですか。町長：「公益財団法人鎮守の森のプロジェクト」という団体があつて、その団体の方が広川町で堤防を作れば植栽しますという提案があつたのです。これに前西岡町長が共感しまして、ぜひやってほしいと。

耐久中学校の前に土手を作り、5000本程植栽してくれたのです。私は令和の大堤防と呼んで広村堤防とともに、守つていこうと思っています。ここは昭和21年の南海地震

の時に、津波が江上川を遡上して、日東紡績で亡くなった方がおられ、耐久中学校も被災したと聞いたので、この堤防が江上川に向かつて長くなつたので、少しは防波堤の役割を果たせるかなと思います。

山下：いま大事にしたいのは「稲むらの火の館」を中心に津波の教訓を伝えていくということなのかな。なぜ町が防災に力を入れているのかを、歴史を知らないといけない。子どもたちが勉強して、ガイドもしているそれを広げていただいたらと思うのですが。

町長：そうですね。子どもたちも、「稲むらの火の館」来客者に教えるぐらいの知識を持つ子もいてものすごくありがたいです。

山下：一時期、「稲むらの火」の話が教科書から消えた時期があつて、中学校ぐらいの時に先生が冊子を作つて教えてくれました。そこから「稲むらの火」を復活さそうというような話もありました。

町長：教科書へは、また載っているようですね。それを伝える「稲むらの火の館」に、雑賀さんという館長さんがいます。ものすごくいい講演をしてくれます。ぜひ聞きに来ていただいたら。お寺の住

職さんで中学校の先生だったので、子どもたちにもわかりやすく教えていただけます。また、3D映像もあるので、ぜひ、それも体験してもらえたら、素晴らしい施設で、素晴らしい館長という事で、ぜひ皆さんにお伝えください。

ふるさと納税で農業振興の好循環を

大前：産業振興やまちづくりで、以前、広川町の職員さんは、農業を守らないと長期的に地域を維持できないと話していました。

町長：私も農林水産業の支援を出来る限りしていきたいと思っています。ただその財源を考えないといけない。ふるさと納税は広く使えます。有田ということで、みかんの寄付額が大きいのです。みかんの寄付額は、農業の方が努力をして、寄付額を増やしてくれている。その分を農業に還元するのが、好循環を生むと思っています。

もちろん、林業や漁業も支援をしていきたいと思つていて、みかんの寄付額が増えた時にそういった還元をしやすいと思うのです。それを「らくらく農業」と言っ



津波防災教育センター「稲むらの火の館」

てスプリングラー助成とかモノラック助成などをしていました。しかし今は、モノラック助成などはしていません。
大前：なくなっただけですね。
町長：それで、これを復活させてほしいという要望がすぐ出ていまして、そのために、財源を増やしたいと思っています。この好循環が生まれたら、そういったことをやっていきたいと思っていますのです。
山下：昔広げたまかんのパイロット事業の明神山の山手、上の方は鳥獣被害でやめていく、自然相手の動物やからどうしようもないというのもある

けれど、フェンスの補助を受けて、みんなやっているけど大変です。

町長：猟友会も駆除を行ってくれているのですが、いちごっこになっっているようで、結構捕ってはくれているのですけどね。

大前：その猟友会が、高齢化していますよね。

町長：若手の方を育てるために、新規の方に、補助や支援はしているのですけども、ただ、命の断つような事は大変だと思います。

大前：時々、熊も出てくるのですよね。

町長：目撃情報までではないのですが、2、3日前にも、津木地区で熊らしきものがいたと。それで女性が逃げようとして転倒し怪我をしたという事がありました。私も広川ビーチ駅近くの道路で、車で猪と出会い頭にぶち当たって、修理代が40万円かかりました。猪は光に飛び込んでくるのでかわすことができなかった。結構大きくて、足を引かずって山へ戻っていききました。あれはすごいと思いました。
山下：もう山手では農業できないから、年配の人は特に山手の農地は耕作放棄してしま

町長：それだけ被害が大きくなりました。広川町も、遊休農地を再開発したら、農地リボーン補助金という制度があるのです。前町長の時に「らくらく農業」のスプリングラーとモノラックの補助をやめて、そっちへ力を入れ直したのです。

山下：そういう場所があれば、新しく苗木を植えて意欲が出てくるしね。

町長：そうですね。開墾せんとあかんで、その分の補助をしています。この間、申請を見たのですけども、若手の方が申請されていて、自分一人で育てていきたいというのがあるようです。

充実した子育て支援、 住みよいまちづくり

大前：有田地域では、有田川町が消滅自治体から脱却したとか言われましたが、広川町も人口は減っていますが、減少は緩やかだと思えるのですが。
町長：そういうイメージを持っていたけるとありがたいですね。ただ残念ながら消滅自治体には入っています。まあ、人口を増やすというのは、どこの自治体でもかなりしんどいと思います。広川町は以

前から、子育て支援を頑張ってきました。多分県下でも5本の指に入るぐらいの支援、助成をしていると自負しています。私が町長になって始めたのは、中学校卒業祝い金で3万円を支給しています。

住みたいとなれば、年齢の縛りはあるのですが、住宅用地を無償で提供するという施策があります。日東紡績跡地の奥なので、場所もいいのです。8軒分あるのですが、まだ3軒しか埋まっていますね。

大前：修学旅行の助成金もありますね。

町長：修学旅行も2分の1助成していますし、国際人材育成事業の助成では、今年はカナダのバンクーバーで中学生を対象に募集をして、12、3人が10日間行ってホームステイしてきています。

町長：担当課とか関係なく、横断的に集まって、子どもを産む障害は何なのか、育てる支援はどうすればいいのか、そういう研究をしていくのです。

山下：うちの息子も行かしてもうたけども。社会経験を積んできました。

町長：担当課とか関係なく、横断的に集まって、子どもを産む障害は何なのか、育てる支援はどうすればいいのか、そういう研究をしていくのです。

町長：行く年によっても違うのですが、行った子らはものすごく喜んでいきます。やっぱり、視野が広がったりします。

それで、やりだしたのが、子どもさんが生まれ、出生届の時に感謝状を贈る取り組みです。私が在庁の時は、直接渡しています。ミキハウスという子ども服メーカーと提携を結びまして、1万円程度の子育てに必要な品物、食器とかバスタオルや洋服とを選んでもらって、それもお渡ししています。

大前：有田地域では、有田川町が消滅自治体から脱却したとか言われましたが、広川町も人口は減っていますが、減少は緩やかだと思えるのですが。
町長：そういうイメージを持っていたけるとありがたいですね。ただ残念ながら消滅自治体には入っています。まあ、人口を増やすというのは、どこの自治体でもかなりしんどいと思います。広川町は以

もう一つ、目玉というか、「新婚さんいらっしやい事業」では、若い夫婦が、広川町へ



ピロティ構造で改築された広小学校（避難所）

県なんかは県全体でやっているようです。いろんな業者が提供するということで、オムツとか、子育てに必要なものを。

町長：あと、一番初めにしないといけないのは耐久中学校の移転だと思っています。さつきも言ったのですが、津波の浸水地域にありますので、高台移転が子どもを安心して育てる親御さんの思いだということ、そこはもう一番早くしないといけない事業だと思っています。校舎も60年以上経っています。これを建て替えて、また、津木中学校

住民の声を聞きながらのまちづくり

は生徒は10人程度で、建物も古いのです。これも一緒に考えないといけないと思っています。

大前：2006年に閉鎖した日東紡績工場の跡地の活用をどうするのか、住民アンケートをされたようですが。

町長：アンケートの回答はとにかく大規模商業施設、買い物場が欲しいというものでした。私は、それはこの場所にこだわらなくてもいいのかなと思っています。食品スーパーなど買い物の場は、いろんなところを提供できたらと思っています。住民アンケートでは、商業施設が欲しいというので、イオンとかコストコとかの大規模商業施設というのが、商業施設のイメージだと思うのですが、それは商圏的なもので難しい。周辺、有田郡市でも8万人しかいないのです。

ここは、津波の浸水地域でもあるので、見に来てくれる企業さんにも、後で騙されたとか言われてはいけませんので、先にきちんと説明しています。それで、周辺の浸水の

関係で、土地のかさ上げもやめてほしいと地元から言われています。広小学校の改築方法のピロティ方式、1階を柱だけで支えた空間を作って、津波が来たら波が抜けるような構造で、その上に構造物を作って工場なり飲食店、スーパーなどをやってくれる企業さんが一番いいと思っています。あとは、スポーツ施設とか公園とか防災施設とか、アンケート調査にもありましたので、そこを順番に進めていきたいと思っています。6万

平米もあって広いので、どこかの企業が1社で使うのはないと思うのです。いろんな複合施設的なことも視野に入れないがやっつていこうと考えていますが、アンケート調査結果が出て、9月に議会に報告させていたいただかりなのです。

山下：時間はかかってもいいけれど、やっぱり住民の意見を聞きながら進めてほしいと思います。

町長：ただ、日東紡績地だけでなく、津木の南インターチェンジのところや、JR広川ビーチ駅は出来て30年程たちますが周辺が少しも変わっていないので、ここはもっと変えてみたいという思いがある

のです。

あとは田舎ですので、風光明媚なええところが多いので、やっぱり海なのかと私は思っています。海を観光資源として使えたらいいなと思っています。

県の観光振興課に誘致部門があるのです。企業誘致課みたいなので、そことタイアップしながら、ホテルなどが海沿いに出来たらと思っています。そして、そこは県と協力しながら募集していきたいと考えています。

大前：西広海岸は子どもを遊ばすには最適な海岸ですね。

町長：年間にすぐお客さん来ています。むしろくちやい場所、あんな遠浅の海岸は日本有数みたいなのです。これもなんとか開発しては思っているのですが、どうしても時間かかるところばかりです。

また、重要文化財の濱口家住宅の改修を昨年度から計画をしまして、今年度から実施していきます。重要文化財ですの、国、県、町、持ち主の方の会社と組んでですね、15億円かけて改修をする予定になっています。その完成が8年後の令和15年を予定しています。

濱口家住宅の一番古い建物は、300年前のもので、200年前、100年前と100年ずつ、増築をしています。

シロアリの被害や、経年で傷んできているので、それを思い切って全面的に改修しようという事になっています。これが完成するのは8年ほど先になるのですが、ここを起点に、新たに広川町の再興をしていけたらなと思っています。

山下：以前、研究所の鈴木先生と見に来て、案内していただきまして。庭側からちよつと上がったところが2階で、そこへ上がったところ、特別室になつていて、すごい建物でした。

町長：やっぱり住民の方が楽しい広川町を目指して、今後とも行政をしつかりと前へ進めていきたいと思っています。広川町に住んでいる方が楽しいと思ってもらえないと、それで誇りを持って広川町はええ町だということを自慢できるぐらいのことをしていきたいと思っています。

大前：新たな感覚で広川町の振興を進めようというお話を聞かせていただきました。ご多忙中ありがとうございます。